



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.3.4 No. 3359

2・25 館山拠点スト

万全の体制でストを貫徹

万全の体制を構築する

昨年の三月スト以来、本線運転士を対象としたストライキは一年ぶりであったが、館山支部も全組合員一丸のもと二・二五ストを貫徹した。

館山支部では、二・二五スト構築のために、青年部役員も加え闘争委員会を設置し、二回の同委員会の開催、職場集会を随時行い、万全なスト体制を築きあげた。

スト前日、十時より組合事務所において、本部派遣山田執行委員を迎え、本部からの最後のなスト準備指令を確認、乗務員分科会からスト対象者への最終確認を行っていくこととした。

同日一七時三〇分、区長に対し、「スト突入に際しての申し入れ」を笹生支部長を先頭に行った。小野区長は「支社対策部の指示で行う」とくり返すのみであった。

妨害はねのけ スト突入集△△

ストライキ当日早朝より、渡辺副支部長が正午からのスト該当者への激励を行うなか、それぞれ組合員が乗務に出発していた。

十時より、所定方針どおり勤務者以外の全組合員が参加のも

と、「館山拠点・スト突入集会」を開催し、笹生支部長より「業務移管粉砕、高齢者対策の将来展望と労働条件確立のために二・二五ストを全力で闘おう」力強い決意を受けた。この集会に対し、当局はなんと集会参加者をとり囲み、三本のハンドマイクで露骨な集会妨害を策動してきた。千葉支社はこの日のために、津田沼・銚子とともにわざわざ清算事業団管理地を「ストライキ前後三日間の管理委託」を清算事業団に申し入れ、それをもって「J.R.に管理権がある」と称して露骨な集会破壊を行ってきたのである。

地区労センタ― からもあいさつ



【いざストへ突入集会を開催】

集会では、来賓の辻田安房地区労センタ―事務局長からも、「こんな弾圧をする会社は見たことも聞いたこともない。三月ダイ改では、市民の切実な願いである特急列車の千葉駅停車すら行おうとしない住民無視の政策は、この弾圧によく示されている。ぜひ住民の足を確保するために全力で頑張ってほしい」と、当局を圧倒する挨拶をうけた。

十一時、スト通告を行うために庁舎に向かうと、小野区長は「組合の連絡員は、一名か二名しか認めない」と頑なな態度に終始した。当局は、「支社の対策本部より何の指示のないので退去しろ」の一点張りに終始する。その後も反動小野区長は、連絡員を認めておきながら、庁舎まで入構を阻止し、現場ではスト通告も、立ち上がり交渉すらも行わないという不当な態度に終始したのである。

一糸乱れぬ スト突入

十二時を期して、スト該当者は、館山・千葉・幕張・安房鴨川において一糸乱れぬ体制で、ストに突入した。十二時以降は館山駅は上下二本、館山、鴨川間は運行列車なしという圧倒的なストライキとなった。スト期間中は、収用班によるスト突入者の迎えとともに、乗務員分科

委員会と集会が開催された。夜になって、集約集会を開催し、ストの成果と意義を圧倒的に確認するとともに、さらに闘いぬくことを全体で確認して、行動を終了した。

スト妨害は J.R.体制の悲鳴

今回のストライキは、J.R.総連とJR当局によるスト妨害策動がより一層激しくなる一方、これに対する組合員の怒りが集中するなかで、断固として打ち抜かれた。このスト妨害は、JR体制が瓦解に危機にたち、その修復にやっきとなっているJR東日本当局とJR総連の悲鳴であることが、ひしひしと伝わってくる。

館山支部は、九一・三ダイ改阻止第二波ストにむけ、体制構築に全力をあげている。

3・23
才25回定期
委員会

・一三時から
労働者福祉セミナー

3・24
三里塚現地集会